

オース!ごきげんさん。

連載



初めまして。落語会のアンパンマン、林家染太です。僕は、平成12年に第二部文学部国文学科を卒業いたしました。只今、天満天神繁昌亭を中心に、落語会、テレビ、ラ

ジオ等で頑張っております。

僕は、愛媛県松山市出身で、愛媛大学教授の父、薬剤師の母の長男として生まれました。松山北高校時代は勉強よりも相撲部、水泳部、放送部、応援団のクラブ活動に熱中していました。

落語に初めて出会ったのは、中学1年生のときです。地元、松山で桂枝雀師匠の独演会があり、友だちの付き添いで行きました。それまで僕は「落語ってご年配の方が楽しむもの」という固



▲英語落語会 in ワッハ上方 大学3年次生のとき

定観念がありました。ナマの落語を観て衝撃が走りました。「世の中にこんな面白いものがあるんや」。それから落語に病みつきになりました。図書館にある落語のCDを借りまくり、覚えた落語を学校のホームルームで演じるという日々が続きました。お陰でクラスでの僕の人気は上がり、それにつれて成績はどんどん下がっていきました。學句の果てに大学受験にも失敗し、予備校に行く羽目になりました。

しかし、「捨てる神あれば拾う神あり」とはよく言ったもので、ここで運命的な出会いをすることになります。この予備校の講師にいられていたのが、何と関西大学文学部国文学科の林省之介先生だったのです。僕は先生の授業の傍になり、また、そのお人柄に惚れ込みまして、翌年、関西大学第二部文学部国文学科に入学することになります。

大学の授業では「近世の笑い」について勉強し、部活動は「落語笑会」に入部し、天満亭右女赤（てんまてい・うめあか）の高座名で落語をして、毎晩のように友人と飲み明かすという、夢のような日々をおくりました。

「笑う角には福来たる」

〈上〉 林家 染太

また、英会話学校「HOEインターナショナル」で英語落語を勉強し、学生の身分ながらプロの落語家とともに、シアトル、アトラントと海外公演に参加しました。その頃から落語家になりたいという気持ちが一段と強くなり、卒業と同時に、

四代目林家染丸に入門することにします。

関大に入学していなかったら、僕は絶対に落語家になっていなかったでしょうし、(落語を通じて)素晴らしい経験をすることもなかったことでしょう。校友の皆さまにもたいへん応援していただき、



▲支部総会にもひっぱりだこ (声屋支部総会で)

荻山 志行 (おぎやま・しこう)

1975年10月5日生まれ。関西大学入学後、落語研究会「落語笑会」に入部。在学中は学業と落語を両立し、教員免許を取得。学費を稼ぐために、京都観光業内の人力車の車夫から家庭教師まで種々のアルバイトを経験したことが、現在の仕事に活かされているという。プロに選んで英語落語に取り組み、在学中にアメリカでの海外公演を果たした。2000年に林家染丸に弟子入りし3年間の修行をへて、落語会や各種イベント、テレビ、ラジオで活躍している。2005年夏、ニューヨーク公演を行った他、中学、高校、大学等で「英語落語読書会」を開くなど、その活動はじつにアクティブで幅広い。



▲第28回落語名人会にて 前列左から2番目 平成10年10月

落語家冥利に尽きます。これからも、IQはないけど愛嬌のある、林家染太をよろしくお願いたします。